つも先生の近くにいて，説明を聞き逃さずメモをして，後でノートに清書しました．ノートは数冊にもなり，私の宝ものになりました．

例会のバスの中では必ず車中講義がありました．「今日は何の日」から始まって，訪問する場所の歴史や動植物，環境，さらに台風や地震，音楽など，幅広く分かりやすく話していただきました．先生の豊富な知識に驚くばかりでした．帰りのバスでは，その日の復習がありました．復習が終わると恐怖の時間です．それは唱歌が中心でしたが，昔々に習った歌の合唱です．１番だけはなんとか歌えても３番，４番となると覚えていません．大きな声でしかられました．さすが先生はよく覚えていらっしゃると感心しましたが，奥さまの話しでは例会の４，５日前になると講義の内容を調べ，歌の練習をされていたそうです．

野草の会では「ひごたい」という記録誌を出していました．私は10年近く，記録係をしましたが，先生から返ってくる校正原稿は真っ赤になるほど朱が入っていました．先生は全部の原稿にきちんと目を通し，不明なところは徹底して調べられていたようです．いかに記録をしていくことが大切なことを教えていただきました．「ひごたい」も33集で終わりました．野草の会の長い歴史を感じると同時に残念でなりません．

あの霧ケ峰八島湿原の色鮮やかな数々の花とともに立っておられた先生，屋久島で11人の会員と縄文杉まで登られた時の自信に満ちた姿，野草の会40周年記念祝賀会でのうれしそうな笑顔など限りなく思い出します．大きな怒鳴り声でしかられたことも今では懐かしい思い出となってしまいました．寂しい限りです．

長い間，楽しい野草の会の顧問をしていただきまして本当にありがとうございました．感謝の心をもって西岡先生のご冥福をお祈り申し上げます．

◎会のプロフィール

昭和42年に発足．平成21年に西岡先生の退会と同時に休止していたが，会員の要望により平成23年春に活動を再開．現在の会員は64人．基本的に２カ月に１回の例会．例会は植物観察会を中心に森羅万象が対象．現会長は長生龍子．

特定非営利活動法人熊本県民天文台

「県民天文台の設立と西岡氏」

艶島　敬昭

西岡氏の業績

1959年（昭和34）10月　当時の熊本市公会堂で，市民を対象に「星を見る会」を始める（月１回）

1964年（昭和39）11月～　小・中学校等へ出かけて，移動式プラネタリウムを上演（全５回）

1966年（昭和41）４月　「星を見る会」の会場を，熊大理学部屋上に移す

1968年（昭和43）４月　「星を見る会」の会場を，熊大薬学部屋上に移す

1968年（昭和43）７月　熊本天文研究会設立に参画，顧問に就任，アマチュア天文家の育成を支援

1971年（昭和46）６月　「星を見る会」の会場を，熊大理学部屋上に移す

1978年（昭和53）３月　博物館にプラネタリウムを導入，一般公開を始める

1981年（昭和56）１月　熊本県民天文台建設期成会に参画，アマチュア公開天文台の開設に助言

1982年（昭和57）５月　天文台開設と同時に熊本県民天文台の初代台長に就任

1983年（昭和58）５月　熊本県民天文台の台長を退任，名誉台長となる

エピソード

「星を見る会」の運営を手伝っていたとはいえ，若い天文愛好家達が自ら「公開天文台」を作り，自分たちの力だけで一般公開するという計画は，当時の財界人や文化人に「本当に継続できるのか？」という一抹の不安を抱かせたに違いない．その不安を，西岡氏は，「開設できたら，１年間は私が台長を務めます」という一言で吹き

1993年３月．新しい天文台に集まった会員たち

払って下さった．お陰で，建設資金の募金活動が順調に進展，翌年春には県民天文台が完成，大勢の天文愛好家が集まって毎晴夜の一般公開が始まった．

以来30年間，現在でも県民天文台の一般公開が続き，そのユニークな活動は全国に知られている．

◎会のプロフィール

【会長】　艶島敬昭

【会員数】　正会員45名

【活動内容】元は1968年７月に設立されたアマチュアの天文同好会．1982年５月に熊本県民天文台を開設した．それ以来，会員がボランティアで市民向けに星空と宇宙の観察指導と解説を継続中．1993年３月，塚原古墳公園内に移転．2003年２月，ＮＰＯ法人に改組．

天文台の一般公開:毎週末（金・土・日）の夜出張観望会などを年間10数回程度開催

【連絡先など】

〒861-4222　熊本市城南町塚原2016
TEL:0964(28)6060　FAX:0964(26)2027
Eメール：astro@kcao.jp
URL：http://www.kcao.jp/

熊本野鳥の会
「西岡鐵夫先生の死を悼む」

坂梨　仁彦

西岡先生は，野鳥の会の設立当初からの会員で，熊本野鳥の会の黎明期を支えていただきました．そして，1991年１月～1998年12月までの８年間，日本野鳥の会熊本県支部長をしていただきました．

支部長をお願いした当時，西岡先生は，熊本市立熊本博物館の副館長をしておられ多忙を極めておいででした．しかし，野鳥の会も前支部長の転勤により緊急事態であり，なにがなんでもと，支部長にお願いした次第でした．ちょうど，私が事務局をお預かりしていた関係で交渉に当たったのですが，なかなか良い返事が頂けず，何度も何度も御自宅まで伺いました．しかし，その都度，毎回毎回雨でした．西岡先生は，自他共に認める雨男でしたので，さもありなんというところでしょうか．最後は何度目だったか忘れましたが，やはり雨の夜でした．ずぶ濡れになって，玄関に立っていたところやっと承諾してくださいました．これは，わざとそうしたわけではなく，傘をさすのが面倒で，駐車場から走っていったためでしたが，さすがに気の毒に思われたのか，そこまで一所懸命なら，と引き受けていただいた次第です．何だか，先生を騙したみたいで，若干胸の痛むところもありましたが，最後までその事は黙ってました．その事は，西岡先生の親友でもある今江先生にも伝わっていて，「上手いことやったな」とにっこりと今江先生には，褒められました．

熊本県支部も，発足から22年目を迎え，自立した大人の会へとステップを一段上がる課程にあり，会員数も200人台から500人へと，急速に拡大していた頃でした．支部長をお願いしている間は，なかなかお忙しくて探鳥会等にはお出で頂けなかったのですが，御自宅の居間には，プロミナーが置いてあり，庭に来る野鳥を見るのが楽しみだったようです．

当時の支部報をめくってみました．まず，支部長をお願いした1991年は，第一回「くまもと環境賞」を熊本県支部が団体として受賞しております．翌1992年は，九州ブロック大会が南阿蘇で開催されています．九州各県から100名近い参加があり，成功裏に終わることが出来ました．因みに，今でこそ県下各地で繁殖が見られるのですが，この年には，アオサギの繁殖が県内で初めて確認された年でもあります．1994年には，「平成６年度熊本県野鳥保護の集い」におきまして，西岡支部長の長年にわたる鳥獣保護に対する貢献が顕著であるということで，「褒状」を受賞されております．因みに，支部長を退任なさった翌1999年は，環境省から「地域環境保全功労者表彰」を受けておられます．

その他，あったことといえば枚挙にいとまがないのですが，最も強く印象に残っているのは，会議では時間厳守が当然で，特に終わりの時間には厳しかったです．「会議なんていつまでもだらだらとするもんではない．」と．また，私たち一人一人を信頼してくださって，「何でも思い切ってやれ．最後は責任は俺が全部とる．」こんな口癖が良く思い出されます．後にも先にも，稀代の名支部長だったと思います．心よりご冥福をお祈りします．

熊本洞穴研究会
「熊本洞穴研究会と西岡鐵夫先輩」

入江　照雄（熊大６回生）

研究会を昭和43(1968)年９月に設立して以来，昭和63年３月の例会160回目を創立20周年記念講演会，祝賀会として迎えた.（会員50名，20年間会費千円を通す）機関紙（会報）「土龍ＭＯＧＵＲＡ」も第13号（創立20周年記念号）まで発行し，洞窟関係（生物学，古生物学，考古学）の調査研究だけでなく，郷土の博物についての調査研究も行なってきた.

この研究会の発足のきっかけは，昭和42(1968)年11月，旧泉村矢山岳のたて穴からのニホンオオカミの頭骨の発見だった．その後，（故）吉倉眞先生，（故）濱田善利先生と西岡先輩に相談して，洞窟関係の研究会を創立した．特に西岡先輩には，全面的なご指導とご支援をお願いすることになった.

研究会は，熊本市立熊本博物館，九州大学探検部，熊本商科大学（現熊本学園大学）探検部などの協力，熊本日日新聞社，熊本放送（ＲＫＫ）などの援助を得て，いくつもの大きな調査研究を行なった.

研究会発足から２年間は，吉倉先生と西岡先輩には顧問として指導を受け，３年目から吉倉先生を会長に，西岡先輩を副会長にして活動する．53年と54年には西岡先輩に会長として，55年以降は顧問とし指導をうける.

御船町の風神洞を調査する西岡さん（中央）（1967年７月）

西岡先輩が関係した主な例会を挙げる.

(1)「球磨村における洞穴・岩陰群の総合学術調査」（熊洞研，球磨村，熊本日日新聞社　昭和44(1968)年７月31日～８月５日）

(2)「五家荘地域緊急学術調査」（主催－熊本博物館，熊洞研，熊本記念植物採集会，後援－熊本日日新聞社，熊本放送　昭和46(1971)年５月29～30日）

(3)「京丈山の洞窟群総合学術調査」（主催－熊洞研，熊本博物館，熊本日日新聞社，熊本放送，後援－熊本大学理学部，熊本商科大学探検部，八社会　昭和52(1977)年４月５～８日）

◎熊洞研以外で個人的に調査などで指導を受けた主なもの

(1)「熊本大学生物教室の学生実習「屋久島・宮之浦岳」（昭和36(1961)年７月23日～８月５日に参加．指導教官は今江先輩，ＯＢとしての参加者は西岡先輩，入江ほか２名）

(2)「風神鍾乳洞の学術調査」（熊本日日新聞社，熊本博物館，御船町－昭和42(1967)年７月11～15日）

(3)「人吉・球磨・五木・五家荘地域自然公園候補地学術調査」（熊本県観光課－昭和43(1968)年11月14～15日）

(4)「熊本博物館主催，第８回指導者講習会」（大瀬洞，神瀬洞で．昭和47(1972)年３月５日）

(5)「熊本県天然記念物の緊急学術調査」（長洲・荒尾地区）（文化庁，熊本文化課－昭和47(1972)年４月14日）

(6)「内大臣学術調査」（主催－熊本博物館，矢部町　昭和47(1972)年７月11～5日）

先輩との主なかかわりについて思い出してみましたが，先輩の誠実，温厚で，真摯な指導態度には常に敬服いたしておりました．生物分野の多方面から直接ご指導いただき，後輩として長い付き合いをさせていただいたことへの感謝の気持ちでいっぱいです.

多方面にわたる偉大なご業績をたたえ，ありし日を偲びつつ，先輩のご冥福を心からお祈りいたします.

合掌

五家荘の会 熊本自然環境研究連合会

永田 瑞穂

◎「五家荘の会」とのかかわり

・「五家荘の会」の運営委員，のちに監事
・五家荘の会・宇城自然観察会・自然環境研究会・里山研究会の同趣旨４会を連合した「熊本自然環境研究連合会」の監事
・『泉村の自然』（1993年五家荘の会「泉村の自然」編集委員会編著，泉村発行）

西岡鐵夫氏は，爬虫類・両生類を担当し，最新の研究成果と豊富な話題を織り交ぜたわかりやすい表現で，親しみある作品となった．（この本は平成６年第15回熊日出版文化賞受賞）

◎「五家荘の会」のあゆみ

第一期

昭和56年（1981），「五家荘の自然とその自然に関わって生きてきた森の文化」を発掘し，描き，発信していこうとの趣旨で会を結成する．年４回の現地調査をおこない，年６回の会誌（Ａ４判４頁，400部印刷）発行する．その会誌は，会員配布だけに限らず，五家荘居住全戸に無料配布し，質の高い自然の維持と消えかかっていた森の文化の発掘継承を企図して，以来，平成元年まで10年間続いた．

第二期

平成２年（1990）～平成17年（2005）現地調査例会の案内と記録，会員相互の通信の会報を年８回発行．

・**会誌『五家荘』**
　Ⅱ-創刊（1995）
　Ⅱ-２号（1999）
　Ⅱ-３号（2001）
　Ⅱ-４号（2003）発行．
・**『泉村の自然』**
　1993年　五家荘の会執筆編集，泉村発行
・**『郷土の自然に親しむ』**
　1998年　五家荘の会・自然環境研究会編著，発行（この本は平成11年第20回熊日出版文化賞受賞）

第三期

・平成18年（2006）～五家荘の会，宇城自然観察会，里山研究会，自然環境研究会の同趣旨の４会が，熊本自然環境研究連合会を結成．年８回の会報発行，隔年に会誌**『自然と文化くまもと』**発行．
・単行本**『五家荘　森の文化』**2011年発行．

熊本記念植物採集会

中島　典雄

昭和６年（1931年）に熊本で行われた陸軍大演習に天皇陛下が統監のため行幸されたことと，その際，県が主宰して県内全域の児童・生徒および教職員を動員して動物・植物・鉱物の標本を調製し，天覧に供したことを記念し，上妻博之が昭和６年に創立した．

晴雨寒暑にかかわらず毎月１回の採集会（以下例会と記す）を行ってきた．例会は植物に関心があれば誰でも参加でき，諸経費はすべて上妻の負担であった．

昭和19年初めころまでは順調に行われたが，戦争の激化により，次第に開催が困難となり，同年半ばから休止となった．昭和21年，戦前からの会員である山城學と高木典雄の尽力で再開された．この時，戦中戦後の混乱で不明となっていた例会番号を第201回とされ，現在に至っている．西岡さんは昭和32年に入会し，本年まで42年間の在籍であった．

現在，毎月１回の例会のほかに，九州各県の友好団体と合同の植物観察会，薬用植物観察会，スライド映写会，標本持ち寄り会，座談会なども行っている．

◎西岡さんと筆者

西岡さんは戦争の末期には陸軍幼年学校に在籍，復員後，第五高等学校入学（最後の五高生），学制改革で五高は熊本大学となり，その１回生となった．ここで動物学の小山準二教授に師事し，生物学研究の道に入っている．この時期，筆者は海軍兵学校から復員し，短期間であったが，動物学教室の助手を務めた．その後，熊本師範学校に入学し，同学校の吉倉真教授（後に熊本大教授）や高木典雄教授（後に名古屋大教授）に生物学を学び，また，小山教授と筆者の父親が古くからの友人であったので，西岡さんと親しくお付き合いするようになった．